

北薩感染症情報

2020年第5週(1月27日～2月2日)

【問い合わせ先】 〒895-0041 薩摩川内市隈之城町228番地1
 北薩地域振興局保健福祉環境部(川薩保健所)健康企画課
 電話 0996-23-3165 FAX 0996-20-2127
 E-メール kita-kenkou-shippei@pref.kagoshima.lg.jp

川薩・出水保健所における定点報告疾患

◎:警報発令中 ○:注意報発令中

定点種別	対象疾患	警報レベル			注意報レベル	川薩保健所管内					出水保健所管内				
		開始基準値	終息基準値	基準値		前週報告数(人)	今週報告数(人)	定点報告数	前週からの増減	警報注意報	前週報告数(人)	今週報告数(人)	定点報告数	前週からの増減	警報注意報
内科・小児科 定点	インフルエンザ	30.0	10.0	10.0		245	142	20.29	↓	◎	146	86	17.20	↓	○
小児科定点	RS	-	-	-		-	1	0.25	↗	-	-	-	-	→	-
	咽頭結膜熱	3.0	1.0	-		2	4	1.00	↗	-	11	3	1.00	↓	◎
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.0	-		59	22	5.50	↓	◎	17	18	6.00	↗	-
	感染性胃腸炎	20.0	12.0	-		35	36	9.00	↗	-	8	4	1.33	↓	-
	水痘	2.0	1.0	1.0		5	2	0.50	↓	-	3	1	0.33	↓	-
	手足口病	5.0	2.0	-		-	1	0.25	↗	-	-	1	0.33	↗	-
	伝染性紅斑	2.0	1.0	-		1	2	0.50	↗	-	-	-	-	→	-
	突発性発疹	-	-	-		-	-	-	→	-	1	-	-	↓	-
	ヘルパンギーナ	6.0	2.0	-		-	-	-	→	-	-	-	-	→	-
	流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3.0		-	-	-	→	-	-	-	-	→	-
眼科定点	急性出血性結膜炎	1.0	0.1	-		-	-	-	→	-	/	/	/	/	/
	流行性角結膜炎	8.0	4.0	-		-	2	2.00	↗	-	/	/	/	/	/
基幹定点	細菌性髄膜炎	-	-	-		-	-	-	→	-	-	-	-	→	-
	無菌性髄膜炎	-	-	-		-	-	-	→	-	-	-	-	→	-
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-		-	-	-	→	-	-	-	-	→	-
	クラミジア肺炎	-	-	-		-	-	-	→	-	-	-	-	→	-
	感染性胃腸炎 病原体がロタウイルスに属する	-	-	-		-	-	-	→	-	-	-	-	→	-
インフルエンザ 入院報告	-	-	-		-	1	/	↗	-	1	-	/	↓	-	
報告数合計		-	-	-		347	213	/	↓	/	187	113	/	↓	/

<注意報・警報>

- ・川薩保健所管内 「インフルエンザ流行発生警報」2週連続継続中。「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎流行発生警報」2週連続継続中。
- ・出水保健所管内 「咽頭結膜熱流行発生警報」9週連続継続中。「インフルエンザ流行発生注意報」4週連続継続中。

<全数報告>

- ・川薩保健所管内 腸管出血性大腸菌感染症(患者1人)
- ・出水保健所管内 なし

<インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等>

- ・川薩保健所管内 小学校1
- ・出水保健所管内 なし

○ 第5週報のトピックス

新型コロナウイルス(nCoV)感染症が感染症法上の指定感染症となりました。

今後は、感染症法に基づき、①医師の迅速な届出による患者の把握。②患者発生時の積極的疫学調査。③患者に対する入院措置や公費による適切な医療の提供等が行えるようになります。

(警報・注意報)

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎について

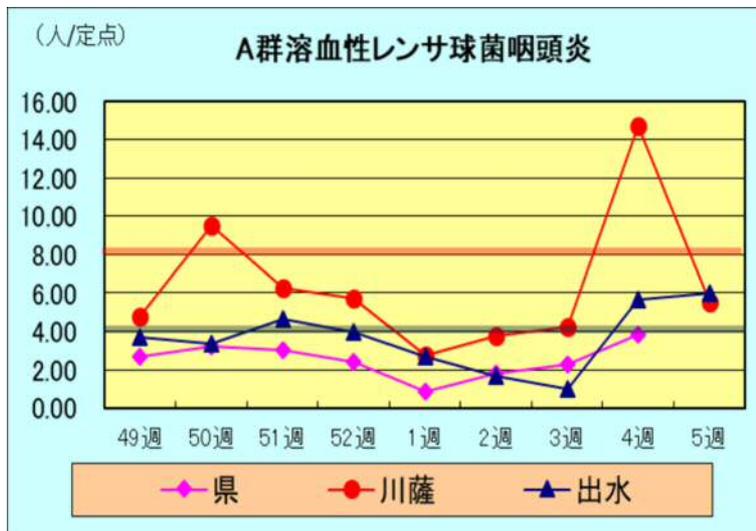
【警報開始基準値 8.0 警報終息基準値 4.0】

(第5週は川薩・出水のみ掲載)

第5週のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況は、川薩保健所管内からは、**22名**(定点当たり報告数 5.50)の報告がありました。

流行発生警報を2週連続継続中。

出水保健所管内からは、18名(定点当たり報告数 6.00)の報告がありました。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎を予防しよう

1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、上気道炎や化膿性皮膚感染症などの原因菌としてよく見られるグラム陽性球菌による感染症で、どの年齢層でも起こりますが、特に学童期の小児に多い病気です。

また、人と人の接触機会が多いときに起こりやすいため、家庭、学校などの集団では特に注意が必要です。



2 症状

2～5日の潜伏期間の後、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛で始まり、しばしば嘔吐を伴います。

合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を起こすこともあります。

3 感染経路

本疾患は通常、患者との接触を介して伝播し、ヒトとヒトとの接触の機会が増加する時に起こりやすいとされています。

4 予防方法

- ・手洗いやうがいを行なう。
- ・感染者との密接な接触をさける。



5 学校保健安全法での取り扱い

明確には定められてはいませんが、条件によっては第3種の感染症の「その他の感染症」として、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまでの期間の出席停止の措置が必要と考えられます。

○咽頭結膜熱について

【警報開始基準値 3.0 警報終息基準値 1.0】

第5週の咽頭結膜熱の発生状況は、川薩保健所管内からは4名（定点当たり報告数 1.00）の報告がありました。

出水保健所管内からは3名（定点当たり報告数 1.00）の報告がありました。

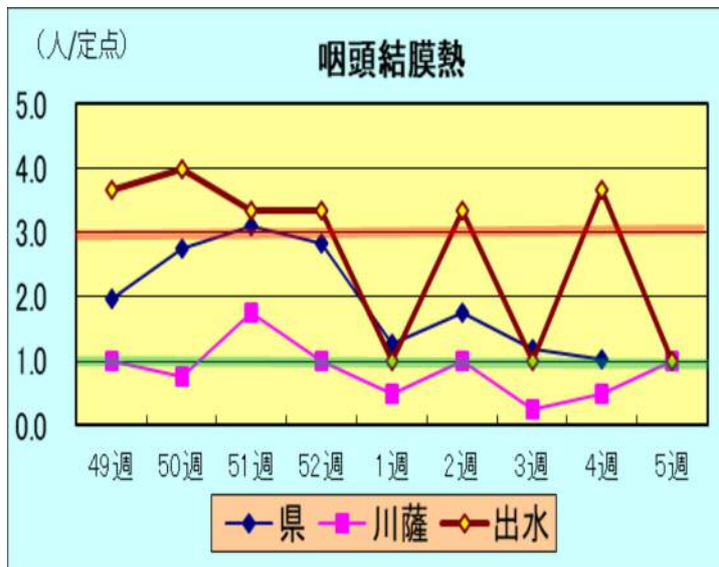
流行発生警報を9週連続継続中。

※ 特徴

咽頭結膜熱は、アデノウイルスによって起こる疾患で、季節的には、通常夏期に流行し、プールでの感染も多く見られることからプール熱とも呼ばれています。

予防としては感染者と密接な接触を避け、流行時にうがいや手指の消毒を励行することが必要です。

（第5週は川薩・出水のみ掲載）



○インフルエンザ

【警報開始基準値 30.0 注意報開始基準値 10.0 警報終息基準値 10.0】

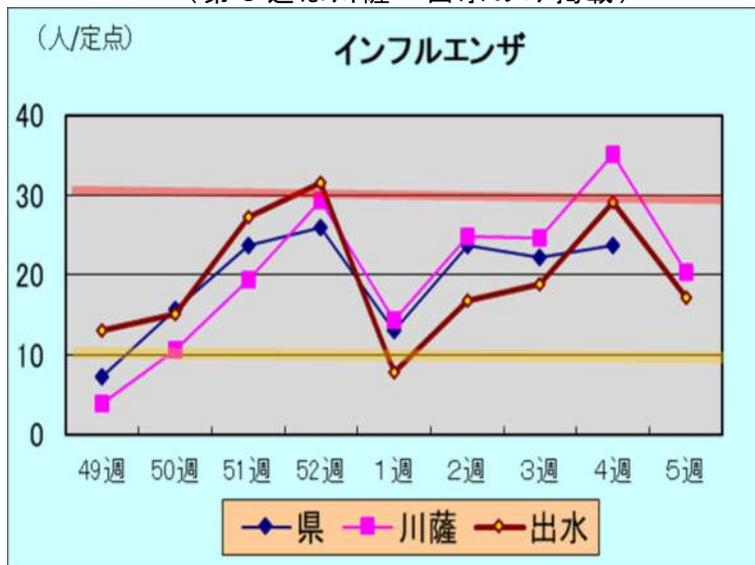
第5週のインフルエンザの発生状況は、川薩保健所管内からは142名（定点当たり報告数 20.29）の報告がありました。

流行発生警報を2週連続継続中。

出水保健所管内からは86名（定点当たり報告数 17.20）の報告がありました。

流行発生注意報を4週連続継続中。

（第5週は川薩・出水のみ掲載）



インフルエンザを人にうつさないように気をつけよう

1 インフルエンザの予防のために

① 外出後の手洗い等

流水・石けんによりウイルスを物理的に除去。アルコール製剤による手指消毒も効果的

② 適度な湿度の保持

空気が乾燥すると気道粘膜の防御機能が低下。加湿器を使って50～60%を保持

③ 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取

体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取を日頃から心がける

④ 人混みや繁華街への外出を控える

インフルエンザが流行してきたら、特に高齢者や基礎疾患のある方、妊婦、体調の悪い方、睡眠不足の方は人混みや繁華街への外出は控える
やむを得ず外出して人混みに入る可能性がある場合には不織布製マスクを着用する



2 インフルエンザにかかってしまったら

～ まずは安静にし、休養をとりましょう ～

① 咳エチケットを守りましょう

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）です。

感染者であっても、全く症状のない（不顕性感染）例や、感冒様症状のみでインフルエンザに感染していることを本人も気づかない軽症例も少なくありません。



したがって、周囲の人にうつさないよう、次のことなどを守るよう心がけてください。

- ・咳やくしゃみを他の人に向けて発しないこと
- ・不織布製マスクをすること。マスクがない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を覆い、顔を他人に向けないこと
- ・鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ袋に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと

② 症状がなくなっても、人にうつす恐れあり

インフルエンザ発症前日から発症後3～7日間は、鼻やのどからウイルスを排出すると言われています。無理をして学校や職場などにいかないようにしましょう。

現在、学校保健安全法では、「発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（幼児にあっては、3日）を経過するまで」をインフルエンザによる出席停止期間としています。